

## 石破首相誕生と直後の落胆ーキングメーカーの存在ー

今回、9名の国会議員が自民党総裁選挙に出馬した。河野氏、小泉氏、加藤氏以外であれば、私は新しい総理として期待したいと思っていた。自民党の古い体制に一貫して批判的であり、党内では反主流派であった石破氏が選ばれた直後、私は彼なら自民党のよくない部分を改革できるのではないかと期待するところは大きかった。

しかし、私のその淡い期待は、2日もしないうちに大きな落胆にかわった。総裁選挙前の公開討論会では、小泉氏の提言した衆議院の早期解散につき批判していたにもかかわらず、その舌の根もわかないうちに首相就任前に早期の解散総選挙を宣言した。この解散にどのような大義があるのだろうか？1カ月足らずの運命の新閣僚に各省庁の部下は従うだろうか？

このような重要な前言を翻すことは民間のトップには許されずとも、政治家には許されているのかもしれない。私は、すぐに翻される可能性ある石破首相の発言を今後聞く気がしなくなった。解散後の総選挙における国会議員候補の発言も同様ではないかと懐疑的になる。当選してしまえば、選挙前に公言していたことを短期間に180度の方針変更をしても許されるのであれば、我々は何を根拠に投票できるだろうか？投票する気もなくなる。

総裁選挙には、「誰がキングメーカー」という議論があり、重鎮である二階、麻生、森氏などの名前が挙がっていた。自民党の重鎮であるキングメーカーは、新総裁をサポートするのではなく、総理を軽い神輿として自分の思うように担ぐのである。今回の衆議院解散は、支持率が高いうちに総選挙をして自民党議員数を確保したいというキングメーカーの考えであって、最高権力者であるはずの石破首相の上に陰で君臨する人が存在するのである。

今回の石破首相の解散発言から、（見かけ上の）トップが代わっても自民党の体質はかわらないことを世間に知らしめたと思う。これでは誰が首相になっても日本の政治はかわらない。多くの日本人が政治に興味を失っていくだろう。老害のキングメーカーという日本の政治体制には別れを告げて、首相が最高権力者である社会を作ってほしいと願う。

伊賀幹二  
伊賀内科・循環器科  
2024.10.5